



本日は 第2970回 例会
プログラム
ゲスト卓話
No.2789 3月17日(木)

次週以降の予定
3月24日(木) 日本の伝統武芸・弓術
3月31日(木) 米山奨学生になって
4月9日(土) 第2グループIM

第2969回 例会報告

2016年 3月10日(木)

会長挨拶・報告



滝川ロータリークラブの皆様、こんにちは。
只今確定申告の真っ盛りでありまして多少寝不足気味です。今残っている量と残っている日数を計算しましてもとって間合う筈は無いのですが、例年ちゃんと間に合うのですから不思議です。

3月15日は一年中で最も忙しい日で、昔は14日は徹夜して一睡もしませんでした。そういえば、今から23年前は、税務援助と言って滝川税務署に60才以下の税理士が駆り出されお手伝いをしたものですが、もう10年前くらいからそう言うお手伝いも無くなりました。おまけに23年前は3月15日の5時過ぎに税務署の中でオードブルを取ってご苦労さん会があり、税務署職員と税理士が酒を酌み交わしたものでした。当時の3月15日は、民主商工会、通称ミンショが団体受付で大勢で押しかけるものですから、法人税統括もその処理の手伝いに駆り出されたものですが、今はどうなんでしょうかね、ETAXが発達し、あまり税務署に行かなくなったものですから様子が分からなくなってしまいました。

本日のゲストは、滝川スカイスポーツの日口裕二様です。グライダーについては大変興味を持っていますが、乗りたいとは思っていません。私の学生時代の一番の友達足柄山の武藤君が卒研でモグラ班に入ることが出来、しかも試験飛行の年度だったので羨ましかったことを思い出しました。モーターグライダー班は、設計、モックアップ造り、風洞実験、設計見直し、モックアップ造り、風洞実験、機体製作、試験飛行と7年かけて完成させます。パイロットはモグラ研究室の助教授でアメリカで免許を取得した先生でした。ちなみに私は何をやってたのかというとIVSI垂直速度計の研究でした。当時は、人力飛行機の8の字旋回に成功すれば賞金が当たると言うことで世界中の大学が削っていました。1984年5月にマサチューセッツ工科大学に成功されてしまいました。本日の講演楽しみにしておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

幹事報告



- ①. 芦別・砂川・美唄RCより会報が届いております。
- ②. 4月6日～15日まで春の交通安全街頭啓発が始まります。時間・場所等の詳細が届き次第お知らせいたします。
- ③. 皆様からご協力頂きました、台湾南部地震災害の募金額57,064円を地区へ送金しました事をご報告いたします。(台湾・第3490地区を通じて贈呈されます)

委員会報告

親睦活動委員会

木曜フォーラムのご案内。3月17日(木)午後6時からマリアー・ジュインベルコにて開催。会費は4,500円、講師は西村恒則会員です。

先週のプログラム

◇国際奉仕委員会担当例会◇

ーゲスト卓話ー



国際奉仕委員会 小嶋 俊明 委員長

本日は、公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会の事業について紹介をさせていただきます。

講師の紹介をさせていただきます。

日口裕二様、1960年(昭和35年)大阪府豊中市生まれ、兵庫県川西市育ち。中学・高校は水泳部出身、背泳。一浪の末、北海道大学に進学。新入部員勧誘のために屋外展示されていたグライダーに引き込まれ、航空部に入部。そこで出会った北海道の空と自然、仲間との惚れ込み、卒業後は北海道に残ることを決意。5年間の教員(滝川西高で数学を教授)生活を経て、滝川市に入庁。配属先は新設されたばかりのスカイスポーツ振興課。以来、グライダーを通じた滝川市のまちづくりに従事。同時に、滝川スカイスポーツ振興協会の事務局員(飛行教官)として滝川市におけるスカイスポーツ振興を推進。現在、産業振興部商業観光課主幹&スカイスポーツ振興協会理事(日本滑空教会理事)。

滝川市は、グライダーの街として市内外から認知されておりますが、その中心的役割を担っているのが、公益社団法人滝川スカイスポーツ振興協会です。滝川市のグライダー基地設置にあたりましては、吉岡市長、近藤良四郎さんという存在なしには語れませんが、本日の講師であります日口さんの北大グライダー部の先輩であります丸井さん、自衛隊帯広駐屯地のヘリ戦闘隊長だった池田さん、そして講師の日口さんという方々が滝川スカイスポーツ振興協会を作り上げてきたと思っております。なお、滝川スカイスポーツ振興協会は、滝川市の補助金で運営されている団体ではありません。全国のグライダー愛好家が会員となり、この会員で運営しており財務内容も極めて健全であり、これからも発展が期待される団体であります。また、当協会はこの度、国土交通大臣表彰であります「手作りふるさと大賞」に選ばれております。今月22日表彰を受けます。大賞受賞は、北海道の団体としては8年振りの快挙であります。グライダー基地としての役割、また当協会の活動内容は、私共が思っている以上に内外から高い評価を受けております。それでは、日口さん宜しくお願いいたします。

「空の波打ち際」の創造

～滝川市におけるスカイスポーツ振興の歩み～



滝川スカイスポーツ振興協会 日口 裕二 様

紹介にもありましたように、私は大阪生まれの兵庫育ち。大学進学で初めて訪れた北海道で、見たこともなかったグライダー、そして素晴らしい仲間に出会い、それまで縁もゆかりもなかった滝川という街と出会い、住みつき、仕事として地に足を付けてスカイスポーツと関わるように

なりました。これから私がお話しするのは、この街でどうして、どのようにして、そして時代を担う人たちがどのようなことを考えスカイスポーツを推進してきたかということです。この街でご活躍の皆様にはほんのさわり程度ですが、この街で30年以上続いてきたグライダー発展の物語にお付き合いいただければと思います。



当時の状況

- 教育の荒廃(暴走族)
- コミュニター航空が盛ん
- 子どもたちの大空に対する憧れ



進歩へのプロローグ

- 国策との連携
第5期北海道総合開発計画(S.63)
「北海道スカイスポーツネットワーク構想」
- その狙いは…
「地域振興」

どうやって

ハード整備を行なったか..

- 滝川市が描いた航空公園計画がベース
- コンセプトは「金網のない飛行場～空の波打ち原の創造～」
国:「治水の面から河川整備」として
道:「地域振興策」として
市:「都市公園整備」として
協会:「競輪の補助事業」として

ソフト事業としては..

- 基本戦略:協会主導による事業運営
- (1)日本のグライダーの中心であること
 - (2)滝川市にメリットがあること
 - (3)情報発信できること
 - (4)財政基盤を確立できること

そして...

まちづくり事業への展開

- 基本戦略:
マニアの力を活用

1. グライダー啓発普及事業



一般体験飛行30,000人達成(H.22)

きっかけ

昭和56年 石狩川の洪水(56水害)



吉岡市長 吉田先生 近藤前会長

第一歩は..

- 既存のグライダー団体による体験飛行会
- その後に、素人集団による任意クラブの創設
- 経験者を「市職員」として採用(S.58)
課外活動として支援

- その狙いは…
「青少年の健全育成に寄与」



そのためには..

- ハード整備
空と親しめる航空公園の創出
- 組織整備
国:(社)北海道スカイスポーツ協会
北海道の地域振興に寄与
滝川市:(社)滝川スカイスポーツ振興協会
滝川市のまちづくりに寄与



- そのためには、
- (1)オンライン・ワンの追求
 - (2)マスメディアの積極的活用
- 具体的事業としては、
- (1)マニアに対する操縦教育(クラブスクール事業)
 - (2)各種イベントの開催
 - (3)体験飛行
 - (4)「空の波打ち原」としての公園

具体的事業

1. グライダー啓発普及事業



サマースカイフェスタ(H.6~)

1. グライダー啓発普及事業



グライダーによる日本縦断飛行「トランス・ジャパン」(H.22)

2. 航空福祉活動



日本で初めての下肢障がい者の航空操縦練習許可取得(H.14)

4. 航空防災活動



ドクターヘリの受け入れ(H.14~)、消防・警察とのスクイットロール協定(H.23~)

6. グライダーの観光活用事業



北海道ならではの「空の観光」(H.23~)

3. 航空教育活動



総合学習の時間を活用した小学生の体験学習(H.14~)

5. 航空遺産保全活動



ウィンチングライダー-復旧プロジェクト(H.23~)

運営の状況 協会の変遷

	平成22年	平成27年
組織	滝川市 2名	2名
協会	3名	8名
会員数	69名(遠征9名)	225名(14遠征)
定款機数	10機	47機
講習日数	2,882回	7,401回(142名)
公開利用機数	—	約27,000人

経済効果

地元企業との取引額	15,000千円/年
観光収入	約10,000千円/年 (延べ宿泊数 約700名/7ヶ月)
パブリシティ効果	約30-75百万円/年
雇用の創出	フルタイム 2名 季節雇用 2名 臨時雇用 4名

経営の考え方

- (1)コアスタッフは最小限
ボランティアを多用(含む、海外)
オーナー機材の活用
- (2)自己資本投資は最小限
寄付金・補助金の活用
- (3)コアスタッフの魅力化(商品化)
日本のトップレベルを追求
- (4)コストダウンと安全確保の両立
- (5)行政との協同

その他の効果

- (1)ブランド化
滝川市=グライダーのまち
- (2)地域特性のある教育に寄与
地域に対する「誇り」の醸成
- (3)魅力ある街の創出
移住・定住、ふるさと納税

暫今後の考え方

- (1)スカイパークのハード機能を多角的に活用
- (2)行政(市民)の想いとマニアの想いとのマッチング
- (3)まちへの融和/ネットワーク

ニコニコBOX

鈴木 忠男会員

孫が大学進学して。

柳 清二会員

結婚記念日にお祝いを頂いて。

小嶋 俊明会員

担当例会を終えて。日口さん有難うございました。

会長/宮崎 英彰
幹事/渡辺 浩司
編集/クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30
例会場●ホテルスエヒロ
事務局●ホテルスエヒロ 7F
〒073-0032 滝川市神神町2丁目2-16
TEL(0125)22-3344
FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。